

4928 ノエビアホールディングス

大倉 俊 (オオクラ タカシ)

株式会社ノエビアホールディングス代表取締役社長

収益構造の改革により、予想以上の利益を獲得

◆2013 年 9 月期第 2 四半期業績ハイライト

売上高 224 億 87 百万円(前年同期比 3.2%減)、営業利益 32 億 68 百万円(同 38.2%増)、経常利益 33 億 90 百万円(同 35.9%増)、純利益 15 億 99 百万円(同 49.9%増)という結果である。期初の予想値との比較では、営業利益 25.7%増、経常利益 25.6%増と利益面では大幅過達だが、売上高は 3.5%の減少である。

内訳は、化粧品事業において新商品効果の一巡や市場競争激化の影響で、カウンセリング化粧品・セルフ化粧品とも前年を下回る結果になっている。しかし医薬・食品事業と、その他の事業の航空関連事業が堅調で前年を上回った。また、化粧品事業、医薬・食品事業における原価低減推進の効果と、配置薬事業の収益性が向上した結果、原価率は前年同期比で 1.2 ポイント低減できた。販管費も 11 億 7 百万円(8.7%)の削減を達成している。これはグループ各社で重複していた管理業務の集約・効率化による固定費の削減、基幹系システムなどの償却費の減少が主な要因である。ただし店頭商品向けの広告宣伝費は、前年同期比約 1 億 73 百万円増と積極的に使った。

結果、営業利益は前年同期比で 9 億 3 百万円、予想比で 6 億 68 百万円の増益となった。営業利益率は 4.3 ポイント増の 14.5%で、これは中期経営計画で当期末 12.5%という予想に上半期で既に到達したことになる。下半期の結果が重要だが、ここまでは堅調な推移と考えている。

◆セグメント別の状況

主力の化粧品事業の売上構成比は 68.0%で、売上高は 152 億 84 百万円(前年同期比 6.5%減)、セグメント利益は 36 億 69 百万円(同 22.3%増)となっている。カウンセリング化粧品では、ノエビアブランドが下半期に大型商品のリニューアルを控え、高価格帯の基礎化粧品売上が前年を下回る結果になったが、これは下半期で取り返せるものと考えている。販売代理店のレッスン型サロン「ノエビア ビューティスタジオ」は 3 月末で 1,300 店まで増加、またスペシャルケアの「バイオサイン」シリーズなどが堅調に推移している。店頭のセルフ化粧品は、サナブランドの「なめらか本舗」が前年を下回る結果となった。ただしリニューアルしたメイクシリーズ「エクセル」と新商品「なめらか本舗 リンクルシリーズ」は堅調である。結果、化粧品事業は全体としての収益改革が功を奏して 20%超えの増益となった。

医薬・食品事業の売上構成比は 28.1%で、売上高は 63 億 18 百万円(前年同期比 0.4%増)、セグメント利益は 4 億 32 百万円(同 148.9%増)となった。主要ブランドのプロモーションを積極的に行い、「南天のど飴」や「眠眠打破」シリーズが前年を上回る結果を得た。栄養補助食品は新商品を含め堅調に推移している。配置薬ルートでも「トキワ アミノ V」などの栄養補助食品が堅調に推移している。配置薬事業では、当社グループの常盤メディカルサービスの収益性が向上し、医薬・食品事業の利益を押し上げる結果となっている。

その他の事業の売上構成比は 3.9%で、アパレル事業と航空関連事業が同じ割合で占めている。アパレル事業は、秋冬物が堅調であった。航空関連事業は、欧米市場が不安定であるものの、堅調に推移した。

◆連結財務状態

当期流動資産における現預金は 387 億 78 百万円(前年同期比 30 億 52 百万円増)で、このうち長期預り保証金が 169 億 53 百万円(同 8 億 58 百万円減)あるので、差し引いた 218 億 25 百万円(同 39 億 11 百万円増)が当期末のネットキャッシュである。販売代理店の長期預り保証金は減少しているが、ネットキャッシュは増加の状況である。

有形固定資産は 7 億 98 百万円の減少、基幹系システムのソフトウェアの無形固定資産は 4 億円の減少である。結果、資産合計は 825 億 22 百万円(同 10 億 93 百万円増)、負債合計は 323 億 64 百万円(同 10 億 34 百万円減)、純資産合計は 501 億 58 百万円(同 21 億 28 百万円増)、自己資本比率は 60.7%となっている。手元流動性が潤沢で、長短借入金はゼロとなっている。

設備投資 2 億 33 万円(前年同期比 1 億 23 百万円)は主に生産設備更新による。減価償却 5 億 64 百万円(同 3 億 16 百万円減)は基幹システムの償却などが減少していることによる。

◆中期経営計画と通期の予想

昨年公表した 2015 年 9 月期までの 3 カ年計画では最終的に売上高 500 億円、営業利益 70 億円、経常利益 72 億円、当期純利益 43 億円、営業利益率 14%、うち海外売上比率が 10%、1 株当たり当期純利益は 114 円 84 銭を目指している。利益面は達成可能とみているが、売上高についても、2013 年 9 月期の予想 480 億円は変更せず、下半期に取り返すという前提で計画を進めている。

2013 年 9 月期通期の予想は、売上高 480 億円(前期比 1.7%増)、営業利益 60 億円(同 16.5%増)、経常利益 62 億円(同 13.7%増)、当期純利益 37 億円(同 32.7%増)、1 株当たり当期純利益は 98 円 82 銭と見込んでいる。

各セグメントの取り組みとして、化粧品事業では「ノエビア ビューティスタジオ」を 1,400 店に向けて出店を推進している。また直営店「ノエビアスタイル」を期末までに首都圏で 4 店舗増やす予定である。そのほか最高級ラインのリニューアルを下半期に決定している。セルフ部門の「なめらか本舗」イソフラボンでは人気タレントを起用した美白キャンペーンを展開中である。またノブブランドでは、本格的な e コマースを 7 月からスタートする。中国を含むアジア地区での取扱店の拡大を強化するとともに、国内の新分野開拓に向けての取り組みを開始している。

医薬・食品事業では「眠眠打破」において、人気タレントを起用し夏のプロモーションを展開する。配置薬については、新営業所を出店し、ルートの確保・増大にも努めていく。

その他事業の航空関連は不安定な中でも更なる商機獲得に取り組んでおり、利益拡大を目指して今後も慎重に進めていく計画である。

(平成 25 年 5 月 14 日・東京)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見るができます。

http://www.noevirholdings.co.jp/ir/account/guide/pdf/2013m_shiryo_130514.pdf